

世界を旅したイチゴ農家

観光農園「ラフェルム」(市原市小折)

今村 文彦さん
ふみ ひこ

真弓 さん
ま ゆみ

西広橋に程近い、小折に開園する観光農園「ラフェルム」。この農園を経営するのは、今村さん夫妻です。バックパッカーとして30カ国以上を旅した文彦さんが腰を下ろしたこの地には、運命的な出会いがありました。

何事も本場で学ぶ

広島県出身の文彦さん。高校卒業後、東京に上京し建設業に従事しました。その傍ら、趣味だった格闘技を本格的に始め、20代のうちに思い切り格闘技に打ち込みたいと考えると、タイにムエタイの武者修行へ。現地の試合にも出場し、2勝1分の成績を収めています。

もともと、植物や農業に携わりたいと考えていた文彦さんは、帰国してから世田谷市場で生花の仲卸しを始めました。これまでとは全く違う業種を選んだ理由を「生花の自然のままの美しさに魅了されました」と話します。数年すると、今度はフランスでフラワーアレンジメントの修行をすることに。「世界中の価値観・文化に触れたい」とできる限り陸路で向かうことにしました。

インドの黄金寺院

フランスに着き、パリの片隅にある日本人宿で出会ったのが、短期旅行中の真弓さんです。意気投合した2人は、帰国したら必ず会おうと約束し、その場を後にしました。

この街

あの人

この人

フランスのフラワーアレンジメントが肌に合わなかった文彦さんは、せっかくだからと世界を一周する放浪の旅に出ることに。アメリカ大陸を縦断した後、ユーラシア大陸へ向かいインドを訪れました。

旅の途中で最も印象に残っているのは、インドのアムリトサルでのこと。この街には、インドにあまたある宗教の一つ「シク教」の聖地である黄金寺院があります。「私が訪れた2015年当時は、国際情勢が不安定で、宗教や民族間の対立が激しくなっていたとき。そんな時期でも、シク教の『人類皆平等』の教えに基づき、寺院にある食堂では、人種・国籍・宗教を問わず無償で食事を振る舞っていました。その光景に衝撃を受けました」と話します。

いちばらでの出会い

文彦さんは、この出来事もきっかけとなり、一人一人の喜ぶ顔を見られる観光農園に興味を持ちます。帰国してから、約束通り真弓さんと再会し結婚。流山市の観光農園で働きながら、果樹の育て方を学びました。その後、独立を見据え、ビニールハウスを貸してくれる人を県内で探しましたが、なかなか見つかりません。そんなときに出会ったのが、早川幸子さんでした。

ご主人が亡くなってから、ビニールハウスを持て余していた早川さん。「まだまだ使える思い出の施設。大事に使ってくれる人を探していました。今村さんご夫妻は本当に人柄が良くて、ハウスの周りの草刈りも積極的にやってくれ、町会でも評判です。絶対に観光農園は成功しますよ」と、一番の応援者。今村さんにとっても、早川さんは困ったことがあれば何でも相談できる頼もしい存在です。

苦難に折れない心の強さ

こうして運命的な巡り合いを経て、開園の準備をしていた令和元年9月。台風の被害に見舞われ、張り替えたばかりのビニールは全て剥がれてしまいました。

それでも諦めず、やっと念願だったイチ

